【別添２】　令和７年度　豊島区立学校　学校評価　自己評価表

豊島区立　　明豊中　　学校

評価対象者数　（人）			
児童・生徒数	保護者数	教職員数	地域の方
378	174	17	7

領域	豊島区教育ビジョン2025 基本方針等	評価番号	評価項目	中間評価 児童・生徒 4	3	2	1	保護者 4	3	2	1	0	地域 4	3	2	1	0	教職員 4	3	2	1	自己評価 概要	学校関係者による評価 学校関係者評価の意見	標語	次年度に向けた改善策
Ⅱ	就学前から小学校・中学校への円滑な接続	Ⅱ－１	学校は、関係諸機関等(保育園や幼稚園、小学校、中学校)と連携を図ろうとしている。					81	67	6	0	20	6	0	0	1	0	13	5	0	0	ゴミゼロデーやリトルティーチャーでの生徒と児童が直接関わる取り組みや、有志を募って実施したみらいトーク、地域ボランティア等、有意義な取り組みができている。	授業態度が大変落ち着いている。肯定的評価が8割超えているのは妥当な評価。小中学校の連携を図ることができている。	A	小中連携での授業や行事をとおして生徒・児童相互の関わりを増やし、活動内容を充実させる。また、社会貢献活動として地域の企業訪問や体験活動をとおして、社会とのつながりを実感させる取り組みを充実させる。
Ⅰ	確かな学力の育成	Ⅰ－１	学校は、子どもの学力の定着・向上のために、分かりやすい授業を行っている。	児童・生徒を対象としたアンケート集計表をご参照ください。				50	95	10	2	17	3	3	0	0	1	9	7	2	0	ＩＣＴ担当教員や支援員が中心となり、各教科等でタブレット端末を活用した授業改善が進んでいる。知識や技能だけでなく、学ぶ意欲を育てて自ら学び判断し行動する能力を育てている。生徒保護者アンケート等のタブレット端末の活用もできている。ICT機器の活用と同時に、書く活動にも意図的に取り組み、語彙を増やし、書字能力も向上させていく必要性がある。	生徒、保護者アンケートからも、分かりやすい授業に取り組んでいることが理解できる。習熟度別の授業では、教師が一人で個別の対応するのは難しいように見える。コミュニティースクールを機に地域のサポートを行い、一人も取りこぼさないようにできるとよい。	B	ICT機器やタブレット端末等の活用による分かりやすい授業づくりのために、校内研究での教員相互の授業参観を次年度も実施し、授業改善に努める。また、学力調査の結果分析を基に授業改善プランを作成し、授業改善を図り生徒の学力向上を図る。タブレット端末をさらに効果的に活用し、質の高い授業を実践し、校内で活用方法を共有する。
		Ⅰ－２	学校は、ＩＣＴ機器やタブレット端末等の活用により、分かりやすい授業の実施や子どもの学びの意欲の向上に取り組んでいる。					55	85	9	2	23	4	1	1	0	1	9	7	2	0				
	豊かな心の育成	Ⅰ－３	学校は、道徳科の時間を含めた全教育活動をとおして、互いの良さを尊重し合う温かい学校づくりを推進している。					62	73	10	1	28	4	3	0	0	0	8	9	1	0	全生徒へのアンケートと聞き取りを実施し、相談機関との連携を進めている。また、スクールカウンセラーによる心理学的な特別授業等を実施し、発達段階に応じて互いの良さを認め合い良好な人間関係の形成について学ぶ機会を設定できた。植物を育てるという生徒の案を実現させることもできた。	i-checkの結果より、生徒は先生への信頼を寄せていることが分かる。一方、心を痛める環境があることも見て取れる。道徳授業地区公開講座や保健講演会等の取り組みが互いを尊重する心を育てている。地域行事での中学生の小学生の関わり方が優しく、心の成長が見て取れる。	B	道徳教育や生命を大切にする態度についての回答では、「わからない」が多いため、家庭に伝わるように授業内容をホームページに掲載したり、授業アンケートを実施したりして積極的に発信していく。道徳授業地区公開講座だけでなく、カウンセラーによる特別授業等、心の教育やＳＮＳの使い方等の情報モラル教育の指導の充実を図る。
		Ⅰ－４	学校は、生命を大切にする態度や思いやり、優しい心を育てている。					48	81	10	0	35	2	3	1	0	1	8	9	1	0				
	健やかな体の育成	Ⅰ－５	学校は、子どもの体力向上や健康の促進に、積極的に取り組んでいる。					64	83	12	1	14	2	4	1	0	0	12	6	0	0	日頃の体育や、部活動、休み時間には、積極的に運動している生徒が多く、体力向上に意欲的である。給食指導については安全面を第一に給食室運営を行うことができた。次年度は他校との連携を強化し、郷土料理や異文化理解につながる献立等、生徒が日々の食事に興味関心をもてるようエ夫していく。	i-checkの結果より、運動、スポーツに積極的に取り組んでいることが分かる。生徒は先生への信頼を寄せていることが分かる。生徒の健康促進に取り組んでいる様子が理解できる。	B	生徒が自らの心身の健康をはぐくみ、安全を確保することのできるよう、楽しんで身体を動かし体力向上を図ることができるよう行事に取り組ませたり、給食委員会が提案する行事食やセレクト給食等、生徒主体の活動を計画させる。栄養職員による食育を次年度も実施し、活動の充実を図る。
		Ⅰ－６	学校は、充実した食育指導を通して、健康教育に取り組んでいる。					69	74	9	1	21	4	1	2	0	0	12	6	0	0				
Ⅲ	一人一人を大切にする教育の推進	Ⅲ－１	学校は、いじめ防止等（未然防止、早期発見、早期対応）に学校全体で組織的に対応している。					47	66	12	5	44	4	1	1	0	0	12	4	2	0	いじめアンケートやi-checkを活用し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応に組織的に取り組んだ。教育相談委員会では、生徒1人1人の状況を共有し、関係諸機関と連携して対応することができた。いじめや、特別支援についての個別対応は、生徒全体に周知されるものではないため、「分からない」が多くなっていることも考えられる。引き続き、個々の丁寧な聞き取りを行い、学年や学校全体での情報共有を密にして対応する。	全ての子供たちが「自分は大切にされている」と実感できるとよい。保護者アンケートより、具体的な取り組みが伝わっていないことが考えられる。学校でいじめは許されないという一人一人に寄り添った取り組みが伝わっていないことが残念。折に触れ、ホームページなどで伝えられるとよい。	B	学習支援、不登校対応、家庭支援、福祉的支援、医療的支援等、個々の実情に合った支援機関につなげるために教育相談委員会を年間を通して開催し、一人一人に適切な具体的方策を立て指導を行う。いじめ防止対策委員会は、月に１回開催し、いじめや不登校の防止・早期発見・早期対応等を組織的に行う。いじめ防止や特別支援教育の理解を推進する取り組みは、学校ホームページに掲載し、保護者、地域の理解を図る。
		Ⅲ－２	学校は、子ども達の気持ちを理解するために、一人一人に寄り添いながら、指導を行っている。					52	78	17	4	23	1	2	2	1	1	10	8	0	0				
		Ⅲ－３	学校は、特別支援教育や発達障害等に関して、一人一人に適切な指導を行っている。					37	41	9	1	86	6	1	0	0	0	8	7	3	0				
Ⅴ	教師力の向上と魅力ある学校づくり	Ⅴ－１	学校は秩序があり、子ども達は落ち着いて学校生活を送っている。					72	86	9	1	6	6	1	0	0	0	12	6	0	0	生徒や保護者のアンケート結果では、生徒は落ちついて授業に取り組んでいる。今後も保護者や地域の方の意見や要望を学校改善に生かす。	i-checkより、生徒の肯定的評価が高いことが分かる。学校参観週間やとしま土曜公開授業で授業を拝見し、落ち着いた雰囲気で授業に集中している姿に感心した。	B	落ち着いた学校生活のために、活動内容や学習計画など、やるべきことを明確に示して見通しを持たせる。また、自分自身の課題を解決したり、新しいことに挑戦したりできるよう、学習や委員会活動などにも主体的に取り組ませていく。さらに、より多くの大人が伴走者となり、生徒発案の新たな取り組みを実現可能なものにしてより良い学校づくりに生かしていく。
		Ⅴ－２	学校は、保護者や地域の方の意見や要望を受け止め、学校改善に生かしている。					59	77	7	1	23	5	2	0	0	0	10	8	0	0				
	家庭・地域との連携	Ⅴ－３	学校は、学校や子ども達の様子を、学校だよりやホームページ、学校公開等によって、分かりやすく伝えている。					85	75	8	3	3	5	1	1	0	0	13	5	0	0	各種だよりやホームページ、安心・安全メール、としま土曜公開授業、学校運営連絡協議会を通して開かれた学校づくりに取り組んでいる。	ホームページで多くの情報が公開され、生徒や学校の様子が大変良く伝わっている。PTAや地域との連携したキャリア教育の取組を今後も継続して行きたい。	A	今年度以上に学校ホームページの充実に努め地域への周知を図る。また、コミュニティスクールとして地域人材の発掘を行い、教育活動の充実と関係機関との連携を図る。参観週間や土曜授業、社会課題に触れた講演会や特別授業を実施する際は、積極的に保護者地域の来校を呼びかける。
		Ⅴ－４	学校は、家庭や地域と協力しながら子どもを教育している。					66	77	7	1	23	6	1	0	0	0	12	6	0	0				
	特色ある教育活動	Ⅴ－６	学校は、地域連携への取り組みに関する教育を推進している。					75	75	4	1	19	5	1	0	0	1	8	9	1	0	ゴミゼロデー、リトルティーチャー等、近隣小学校での活躍の場が増えていることで、ボランティア参加の生徒が増えている。地域の担い手となる生徒会主催の活動や地域貢献活動も充実させていくことができている。	生徒が児童を教えることで、生徒が主体的に活動していた。地域の中で活躍する中学生の姿は、明豊中の強みとなっており、今後もこのような活動を進めてほしい。	A	今後もSDGs委員会を中心に企画・運営を組織的に行い、生徒がより主体的に取り組めるように働きかけ、持続可能な社会の担い手を育てる。
Ⅳ	働き方改革	Ⅳ－１	学校は、校務支援システムの活用や「チーム学校」を意識した業務分担等により、組織的に業務の効率化・最適化を目指して取り組んでいる。															7	6	5	0	校務支援システムを活用してデータ共有ができるようになり、校務軽減につながっている。しかし、教員の校務負担軽減を実感できる取り組みは無いため、負担感は変わらない。	オンライン授業やタブレットを使っての授業やアンケート等ＩＣＴを活用した場面が多く見られるようになった。	B	不登校支援員の配置により「めいほうるーむ」の安定した運営ができた。SSWによる登校支援や地域人材を活用した外国籍の生徒への個別学習支援等、個に応じた配慮や支援を継続していくために組織全体で個別対応の情報共有を行う。また、学校評価を基に組織的に業務を遂行するために校務分掌等の組織編成の見直しを図る。

※学校関係者による評価の評語は、自己評価結果について以下の視点で行う。　A　評価は妥当である　　B　評価はおおむね妥当である　　C　評価は妥当ではない　　D　評価方法を見直す必要がある